

1 市場を取り巻く課題への対応

<p>(1) 物流の2024年問題への対応（青果部）</p> <p>① パレット化の一層の推進 従来は荷物をトラックに手積み・手降ろしていたものを、予めパレット上に荷積みし、フォークリフトで荷下ろしすることで大幅に作業時間を短縮（2.0～3.0時間→約30分）、場内でパレット積み車両の優先レーン設定などパレット化の推進</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>(従来の荷下ろし)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(現在の荷降ろし)</p>  </div> </div> <p>② システム化の推進、荷下ろし作業の人手確保 トラック到着予約システムの試験導入（11月～）に加え、卸売業者と荷役業者が作業チームを構成して売場内にてトラックの荷下ろし作業を行うなど、荷待ち・荷役作業、拘束時間の短縮化を積極的に推進</p>	
<p>(2) 産地連携集荷補助事業（青果部）</p> <p>札幌市民への青果物の安定供給、適正な価格形成、量販店等ユーザーの幅広いニーズに対応した品揃え・物量の確保という市場機能の維持を図るため、道内産地と連携し長期の安定集荷を目的とした事業に対して、本市がその経費の一部を補助する事業を令和6年度より新設（令和6年度採択事業）</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>①事業内容 本来入荷しない休日（主に火曜日夜・土曜日夜入荷）の荷物対応、運搬費補助</p> <p>②実施時期 6月～8月を中心とする</p> <p>③連携予定の産地 JALしほこたて（北斗市）</p> <p>④集荷予定品目 長ねぎ、人参、大根、にら、トマト、きゅうり等</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>(選果場の見学 JAようてい)</p> </div> </div>	
<p>(3) 道産水産物応援消費へ向けた対応（水産物部）</p> <p>福島第一原発のALPS処理水放出による影響を受けた、ホタテなどの道産水産物の消費拡大を図るため下記取組を実施</p> <p>【市場での実施事項】</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>① 道産水産物応援消費推進協議会の設置・開催 ・協議会の開催 ・道産水産物消費拡大の目的を達成したため解散</p> <p>② 道産水産物応援デーの開催 ・水産仲卸店舗の一般開放。参加者約1,950人</p> <p>③ 応援消費推進広告の掲出 ・水産棟2階通路に「食べて応援！北海道キャンペーン」横断幕等を設置</p> <p>④ その他各団体との連携 ・市教育委員会と連携：学校給食へホタテ提供。市内242校、約12万食提供 ・北海道主催の道産水産物流通・輸出に係る連絡協議会への参加 ・赤レンガホタテまつり等、各種販売フェアへの協力</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;">  <p>(R6.3.26 応援デーの様子)</p> </div> </div>	

2 第2次札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクトの進捗について

	主な取組事項	令和5年度の主な取組結果	令和6年度の主な取組予定
I 運営編 (札幌市の取組)	(1) 安定した収入の確保 ① 販売・集荷力の強化支援 ② 輸出促進支援 ③ 市場使用料の見直し ④ 市場内空室の解消 ⑤ 施設の有効活用 など	<p>(①関連) 販路拡大支援事業として、新たに5件の補助事業を採択</p> <p>(②関連) 輸出ブランド化事業として、2件の補助事業を採択</p> <p>(④関連) 場内、インターネット（HP、SNS）を利用した空室情報の周知とタイムリーな状況の更新</p> <p>(⑤関連) 札幌競馬開催期間中の日曜日に、駐車場の一般開放を実施</p>	<p>(①関連) 販路拡大支援事業として、新たに4件の補助事業を採択。また、産地連携支援事業を新設</p> <p>(②関連) 輸出ブランド化事業として2件の補助事業を採択</p> <p>(④関連) 前年度の実績の継続、多様なニーズに対応できる空室環境の改善検討</p> <p>(⑤関連) 前年度と同様、駐車場の一般開放を実施</p>
	(2) 継続的な支出の抑制 ① 計画的な施設の更新 ② 事務経費の削減 ③ 資源リサイクル施設のあり方検討	<p>(①関連) 青果棟屋上防水改修など、必要な改修事業を継続して実施。修繕も必要箇所を実施しつつ、費用抑制を意識して執行</p> <p>(③関連) 資源リサイクル施設停止に向けた問題点の解決に向けた検討を実施</p>	<p>(①関連) 前年度に引き続き、水産棟冷凍設備改修など、予定した事業を着実に推進</p> <p>(③関連) 前年度の検討を継続</p>
	(3) 社会的要請への対応 ① 危機管理体制の増強 ② 多様なエネルギー機器の導入支援 ③ 観光客の取り込み ④ 食育ツアーの実施 など	<p>(①関連) 場内防災訓練を実施</p> <p>(②関連) 構内運搬車の電動化に向けた場内事業者との検討を実施</p> <p>(③関連) 他都市視察を実施</p> <p>(④関連) 小学生向け食育ツアー開催（冬1回）</p>	<p>(①関連) 場内防災訓練を実施</p> <p>(②関連) 前年度の検討を継続しつつ、工事に向けた設計の開始</p> <p>(③関連) 市場の理解促進に資する方策を検討</p> <p>(④関連) 小学生向け食育ツアー開催（当初目標の夏冬各1回）</p>
	(1) 地域経済に貢献する市場 ① 市場事業者の取組（共同・新規） ② 取引ルールの見直し ③ 食育事業及び消費拡大事業の推進 ④ SNSを活用した情報発信 ⑤ 各事業者の人材確保 ⑥ 事業所内保育所の整備検討 など	<p>(①関連) 運営編(1)-①・②に同じ</p> <p>(②関連) 新型コロナ感染症拡大防止に係る取引方法（特例措置）の廃止</p> <p>(③関連) 販促キャンペーン、食育セミナー、料理講習会などを開催</p> <p>(④関連) 初入荷など、定期的な情報発信</p> <p>(⑤関連) 人材確保講習会を実施</p> <p>(⑥関連) 事業所内保育所は整備しないこととし、企業主導型保育所の情報を場内周知</p>	<p>(②関連) 農水省通知に基づく新規売買参加者承認対象の見直しの検討</p> <p>(③関連) 販促キャンペーン、食育セミナー、料理講習会などを開催</p> <p>(④関連) 初入荷など、定期的な情報発信</p> <p>(⑤関連) アンケート調査の結果を踏まえ、人材確保講習会のテーマを選定し実施</p> <p>(⑥関連) 企業主導型保育所の情報を場内周知（R5は年1回⇒R6は上半期、11月頃の2回）</p>
II 活性化編 (市場関係事業者の取組)	(2) 環境負荷の少ない市場 ① 物流の効率化 ② 施設等利用実態の整理と受益者負担の適正化 ③ 環境負荷軽減に向けた取組 など	<p>(②③関連) R5.4から青果生ごみの排出を有料化した結果、青果生ごみの排出量が前年度と比べて約3割減少</p>	<p>(①②関連) 施設等利用実態調査を実施</p> <p>(②関連) 一般ごみの受益者負担額引き上げについて検討</p>
	(3) 安全・安心を守る市場 ① 市場内の人材育成 ② 各社のコンプライアンス意識の向上 ③ HACCP等に沿った衛生管理の徹底 ④ 食文化・食育の振興、市場魅力発信 ⑤ 統計情報等の適正な提供 など	<p>(①・②関連) 食品偽装問題をテーマとした講習会を開催</p> <p>(②関連) コンプライアンス推進ワーキンググループの定期開催</p> <p>(④関連) 市場協会YouTubeに料理動画4本、ショート動画22本を投稿</p>	<p>(①・②関連) 各種ハラスメントをテーマとした講習会を開催予定</p> <p>(④関連) 学生による取材・撮影内容を市場協会YouTube及びInstagramに投稿</p>